

<日商簿記1級商業簿記ミニテスト10 減損会計> 問題

大阪事業所にかかる固定資産はひとつのグループとしているが、経営環境の悪化により減損に兆候が認められた。

	建物	備品	土地	合計
取得原価	210,000	43,700	185,000	438,700
期末現在の帳簿価額	144,800	14,900	185,000	344,700

①主要な資産の経済的残存耐用年数は20年であり、割引率は2%、期間20年の年金現価係数は16.351、現価係数は0.673とする

②将来CFは以下のように見積もっている

平成32年3月期から平成51年3月期まで各年度9,000円

平成51年3月末における正味売却価額は70,000円である

③期末時点での正味売却価額は118,000円である

④減損処理を行う場合、認識された減損損失は、当期末の帳簿価額の比率に応じて按分し、各資産に配分すること

以上の資料により減損処理の仕訳を行いなさい。なお、会計期間は30年4月1日から31年3月末であり、小数点以下の端数は四捨五入すること

<第67回税理士試験財務諸表論より>

借方	金額	貸方	金額
減損損失	150,431	建物	63,192
		備品	6,503
		土地	80,736